

2006
5 vol.368
CONTENTS

- 2 第4回世界のウチナーンチュ大会
ルーツはウチナーンチュ
- 4 県政フラッシュ
- 6 特集1 簡素で効率的な行政運営を目指します。
- 8 特集2 身につけよう ハブについての正しい知識
- 10 特集3 夫(妻)や恋人からの暴力は決して許されるものではありません
- 12 亜熱帯 美ツクリレンズ
—やんばるに暮らす生き物たちの素顔—
- 14 愛ランドまーい
地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて
- 16 県の動き1
おきなわ県政出前講座
- 17 県の動き2
県立病院事業が新たにスタート
- 18 情報広場 おしらせ
- 20 おきなわ夢人列伝

表紙写真
「花の島、沖縄四季抄」
5月号表紙写真 「ウコン」
写真：久高 将和 (くだか まさかず)

沖縄県広報誌「美ら島沖縄」について

沖縄県広報誌「美ら島沖縄」は、県の施策や情報をわかりやすく県民のみならずにお伝えする冊子です。公共機関や学校、銀行、病院など多くの方が利用する施設でご覧になることができるほか、沖縄ファミリーマートの店舗で無料配布しています。

沖縄県広報課 TEL.098-866-2020
http://www.pref.okinawa.jp/churahome/



ルーツはHAWAII
ハワイ編
ウチナーンチュ

移民の歴史に学ぶ、次世代の国際交流

いま、広く海外に暮らすウチナーンチュは、およそ三十五万人。そのルーツは、志を胸に新天地に渡った移民たちです。移民が築いた絆を子や孫へ。世界的なウチナーネットワークを継承するため、来る十月十二日から「第四回世界のウチナーンチュ大会」が開催されます。

本大会に先立って、県内の学校では、世界中に移り住むウチナーンチュを通して世界のことを学ぶ「一校一國運動」などを展開。次世代の国際交流の担い手を育成しています。

移民はじまりの地で学ぶ、移民の歴史

「二校一國運動」ハワイ交流パイロット校 嘉芸小学校

パイロット校としてハワイと交流している嘉芸小学校(金武町)では、「一校一國運動」の一環として、「出前授業」が行われました。

出前授業とは、沖縄NGO活動推進協議会が講師を派遣し、国際交流に関する参加型の学習を行うものです。

同校では、紙芝居「ハワイに渡った日系移民」の読み聞かせや、世界各国の民族衣装を実際に着てその国柄を紹介するという内容の授業が行われました。生徒たちは、各国の文化や風習をより身近に感じた様子で、移民の歴史や国際社会への理解を深めていきました。

ウチナーンチュのハワイ移住を先駆けした金武町という土地柄のためか、同校では、出前授業以外にも、ペルー、韓国、中国などの国際交流員を招いた授業を行うなど、生徒の国際交流に積極的に取り組んでいます。



▲紙芝居で移民の歴史をわかりやすく紹介

▼世界の民族衣装や国柄を学習



「海を渡る豚」プロジェクト

世界はウチナーンチュに届けよう
今大会では、「海を渡る豚プロジェクト」が行われています。このプロジェクトは、県内の各学校から海外に住むウチナーンチュへ、豚のぬいぐるみを使者として、手紙や沖縄の特産品などを届けるというものです。

豚のぬいぐるみは、全部で五百五十個。これは第二次大戦の際、沖縄の惨状を知ったハワイのウチナーンチュたちが、沖縄に向けて贈ってくれた豚の数、五百五十頭に由来します。六十年前の感謝と友情の気持ちを豚のぬいぐるみに託すのです。

嘉芸小学校でも、豚のぬいぐるみに、金武町の様子や生徒たちの紹介を



(左)ゆいちゃん (右)まーるちゃん

記した手紙を添えて、ハワイの県人会へ届けました。生徒たちは、その返事を心待ちにしながら、大会を通して、ハワイ在住のウチナーンチュと直接会える日を楽しみにしています。

海外移民の第一歩がここから：
移民の歴史物語ハワイ編

Since1899

サトウキビ耕地へ、労働契約移民三十人渡る

一八九九年(明治三十一年)十二月、ハワイのサトウキビ耕地へ三年契約の移住労働者三十人が那覇港を出発しました。

翌年一月、そのうち二十六人が当地へ入耕し、沖縄県出身移民の先駆者となったのです。

この沖縄初の海外移民の送り出しは、金武村の當山久三の努力が実を結んだもので、それから四年後には當山自身が引率し、全員が金武村出身の農民という第二回ハワイ移民が渡航します。出発の際に詠んだ首、「いざゆかん、我等の家は五大州」は海外雄飛の象徴として知られています。

耕地で、沖縄の移民たちは過酷な労働に耐え、郷里へ多額な送金を果たして成功を収めました。その評判からハワイ移民が急増し、やがて沖縄県は全国有数の移民県になっていきました。



再建された當山久三銅像(金武町雄飛の森)



サトウキビ刈取作業



ハワイ在住、金武町出身者の前で空手を披露した金武町の子供達

第二次世界大戦では敵国が祖国という立場でハワイ移民も厳しい状況にありました。それでも終戦後の郷里沖縄を思い、生活・物資を送り、戦後復興に援助を惜しみませんでした。

(「金武町史 第巻 移民本編」参照)

第4回世界のウチナーンチュ大会
キャッチフレーズ ロゴマーク
一般公募により決定!

ウチナーンチュが持っているチムグクル(真心)を世界に広げ、手をつなぐことで海外のウチナーンチュが仲良く海を渡ってくださることを願うとともに、移住世代から次世代へネットワークを継承していくという想いがこもっています。

キャッチフレーズ
那覇市 砂川 雅美

ロゴマーク
八重瀬町 大城 舞子

第4回
世界のウチナーンチュ大会

前夜祭 平成18年10月11日(水)

本大会 平成18年10月12日(木)～15日(日)

会場 沖縄コンベンションセンター・宜野湾市立体育館
宜野湾海浜公園・宜野湾市民会館・沖縄県立武道館
奥武山総合運動公園・沖縄県総合運動公園

Event
イベント

11 THU 前夜祭パレード
各国からの参加者が思いの衣装で国際通りをパレードします。

12 THU 開会式
開会宣言、各国県人会紹介、ウチナー民間大使紹介を含め、感動的な演出による歓迎のセレモニーを行います。

15 SUN フィナーレ
大会の成功を祝い、ウチナーネットワークの継承と発展を全員で誓う感動のフィナーレ。

経済交流
ワールドバザール ワールドビジネスフェア

スポーツ交流
国際交流ゲートボール大会 空手道・古武道交流祭

文化交流
ウチナーンチュ交流祭 沖縄伝統芸能祭 沖縄郷土劇場

ウチナーネットワーク
ウチナーンチュシンポジウム ワールド学生会議